

兵庫県立鈴蘭台高校

希望進路に必要な科目を 探するために進学ネットを活用

「進学ネット」
充実したコンテンツで
高校生が卒業後の自分を発見
「適学・適職診断」や、469職種、78の
学問、584の資格の紹介、学校情報が
リンクされ、気になる情報を直感的に探
せる。登録者には専用ページを開設



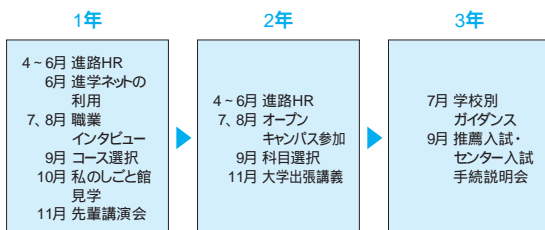
まずは「適学・適職診断」で 進路イメージの絞り込みを促す

兵庫県立鈴蘭台高校ではここ数年、1年生の1学期に「情報」の1コマを利用して進学ネットを使った授業を実施している。「ネットを使うメリットは何と言ってもスピード。興味に応じて気になる情報に次々とアクセスできる便利さを体感してもらいたい」と語る進路指導部の古田昌弘先生。

授業はリクルートが発行するリーフレットを参考にしながら進む。会員登録を済ませたら、まず行うのは「適学・適職診断」。「適職診断で、『通関士』など聞いたことのない職種がリストアップされると、生徒達は興奮して歓声をあげます。世の中にたくさんの仕事があることに気づき、自分の適性を考え始めるようです（古田先生）

最近では3年次に「文転（理系の生徒が文系に転じること）」するなど、ギリギリで進路を変える生徒が目立つ。「友達がイイと言うから」など、安易な理由で進路を決める傾向もある。「好きなこと、興味のあることに基づいて進路を選ぶ」ことができていない。1年次は職業インタビューや「私のしごと館」（京都府相楽郡精華町）での職業体験などで「仕事観」を育てる一方、生徒自身の「向き・不向き」の判断材料として適性診断を行うことも不可欠だと先生は考えている。

主な進路指導行事

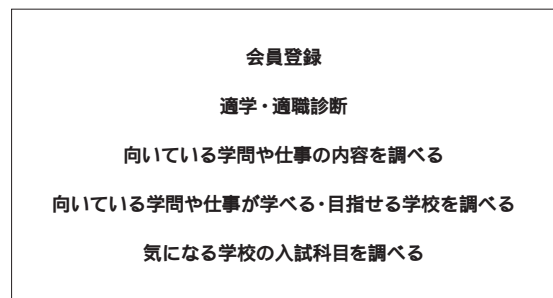


1年次に将来の職業を考える様々な行事を行い「なりたい職業」を決定。2年次には志望校選びを行い、3年次の受験に備えるという流れになっている。

志望学部に必要な受験科目を調べ 科目選択の参考にさせる

授業の後半は気になる学校をリストアップし、必要な受験科目を調べる作業となる。この結果を、2・3年次の科目選択の参考にすることが授業の最終的な狙い。「しかしそこまでできるのは全体の2割弱。PCを使い慣れていない生徒は遅れるし、接続が切れやすく作業が中断することも悩みの種です。授業後は進路指導室のPCも利用できることを伝え、継続した活用を促しています（古田先生）

進学ネットを使った授業の流れ



古田昌弘先生

進路指導部は06年度で3年目。「情報」担当の教員に代わって、自ら進学ネットを使った授業を担当している。「ネットの利便性を伝え、活用を呼びかけたい」

>> School Data

生徒数 / 636人(男子300人・女子336人) 普通科 16学級
進路状況(2005年度)/大短進学67.1%、専各進学13.7%、
就職・浪人・その他19.2%、
兵庫県神戸市北区山田町下谷上字中一里山9-107

TEL 078-591-1331

URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/suzurandai-hs/top/>